

【施設状況】

グループ名称	もんぜんぷら座こども広場（じゃん・けん・ぼん）								
指定管理者名	特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト				法人番号	6100005002075			
所管課	主	117000	保育・幼稚園課	副					
構成施設	もんぜんぷら座こども広場（じゃん・けん・ぼん）								
施設分類	06	保健福祉2型		施設利用者圏域	01	地域施設	利用制適用区分	01	代行制
施設概要	床面積860㎡ 遊び場、活動室、相談室、会議室、おひるね室、授乳室、おむつ替えコーナー、こどもトイレ、親子トイレ受付、事務室								
施設設置目的	乳児及び幼児とその親子の子育てに対する悩みや不安を解消し、もってそれらの者の福祉の増進に資するため、子育て支援の拠点施設として設置する。								
基本方針等	指定管理者の創意工夫に基づいた管理運営により、質の高いサービスを利用者に提供するとともに、地域に根ざした施設となることを目指す。								
主な実施事業	①子育て中の親とこどもの交流に関する事業、②子育てに関する相談、③子育てに関する情報提供、④あそびに関する指導及び助言、⑤その他子育ての支援に関すること								

【項目評価基準表】

評価	評価基準
5 (優れている)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが特に大きい
4 (良い)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上
3 (普通)	・協定、事業計画が予定どおり実施された
2 (劣る)	・協定、事業計画の一部が予定どおり実施されない ・管理運営の一部において、市の指導が必要
1 (悪い)	・協定、事業計画が全て実施されない ・管理運営の全てにおいて、市の指導が必要 ・市の指導を受けてもなお、全く改善が図られない

【評価項目】

1 指定管理者の健全性

指定管理者名	特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト		指定回数	3 回
指定期間	平成29年4月1日	～	令和4年3月31日	5年
	管理運営開始日		平成18年4月1日	
指定管理者の健全性	施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか。 また、団体の財務状況や組織体制は、管理運営実績のある他施設での管理運営状況も踏まえ、良好で、健全か。			評価
	特記事項 (問題等があった場合に、その内容等を記入)			4

2 施設の有効活用

施設利用状況 (利用者数、件数、稼働率など)	利用区分等	単位	H27	H28	H29	H30	対前年比	評価
	利用者数	人	49,239	47,193	46,813	45,519	97%	
	出張広場参加者	人			906	1,295	143%	
	新規登録乳幼児数	人	2,431	2,292	2,304	2,127	92%	
	専門家相談人数(保育スタッフ除く)	人	511	505	552	481	87%	
	ホームスタート訪問家庭数	人	35	37	63	67	106%	
							#DIV/0!	
<p>(特記事項) 入場者の減少は、少子化、0~2歳児の保育需要増加、駐車場が有料といった要因のほか、雨天や冬季にTOiGO駐車場が使いにくいことが原因として考えられ、対応策として他関係機関(ゆりかごの会、東部及び北部保健センター)と連携して出張広場を開催。専門家相談件数が減少しているのは、出張広場など保護者が利用しやすい場所での相談が増えているため。</p>								
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案		追加事業、未実施事業及び未実施の理由				
	市指定事業	<ul style="list-style-type: none"> 子育て中の親とこどもの交流に関する事業 子育てに関する相談 子育てグループ等の育成 子育てに関する情報の提供 あそびに関する指導及び助言 子育て情報誌の発行 子育て講座、イベントの開催 ホームスタート事業(訪問型子育て支援事業) その他子育て支援に関する業務 						
	自主事業	<ul style="list-style-type: none"> 講師料利用者負担による講座 子育て中のお母さんのためのリフレッシュ講座、プレママサロン、離乳食講習会、パパ講座 地域・多職種と連携した広場の開催 あそびましょう(東部保健センター月2回)、ゆりかご、ぴーかーぶー、さんさんひろば(権堂イーストプラザ) スタッフの資質向上のための研修会の開催(自己負担で参加) N P フォーラムin2018 						
サービス維持・向上の取組み(広報等)	<ul style="list-style-type: none"> ・月間予定表、ホームページ、Facebook、ブログで毎日の活動を紹介する等、情報の発信に努めた。 ・情報誌「じゃんけんぼん」を6回各2,200部発行。保護者、支援センター、保健センター、公民館などに広く配布した。 ・週刊長野に便り「子どもも親もいきいきと」子育て・子育て支援の情報を月1回提供。 ・広場から遠い地域や多胎児等で来所しにくい保護者の要望に応え、出張広場を開催しサービスの向上に努めた。 							

5

3 利用者評価

利用者評価	区分	内容		評価
	利用者要望把握	(1) 利用者要望把握方法	利用者アンケート	
利用者からの評価・苦情等	(2) 調査、会議等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者アンケート調査…平成31年1月上旬から下旬 回答数208名。利用者の現況、利用状況・目的、広場・スタッフへの意見、保護者・子どもの生活状況、子育て資源の利用状況、利用者のサポート状況、生活や子育て感について調査。 ・利用者会議等…サークル活動責任者会議(H31.2.25)。 ・講座等…終了後アンケート調査、また一人一人から感想・要望等を聞き取り(ねんねの会、ねんねの次の会、年齢別おしゃべり会、NP講座、転妻の会、子育て講座、アートプログラム、リフレッシュ講座等)。 ・利用者の声コーナー(投書箱により利用者の声を把握)。 		
	(3) 調査、会議等の結果	<p>アンケート調査結果は、広場ホール内に掲示。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査…スタッフの対応、広く安心・安全な環境、おもちゃが豊富、利用料無料などが好評。 ・利用者会議…活動室の利用料が無料で利用できる等良好な意見の他、実施プログラムへの創意工夫や駐車料金への補助の増額を求める声も聞かれた。 ・講座等…子どもの月齢に合わせた講座・おしゃべり会などが好評で、孤独感、負担感の解消の場となり、前向きな子育てへとつながることができている。 		
	(1) 良好とする評価	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果…「スタッフの対応」満足70%、まあ満足28%で利用者の98%がスタッフの対応に満足。自由記述では「いつも笑顔でやさしく丁寧」「細やかな気配り、声がけていただきありがたい」「話しやすく、相談にも乗っていただける」などスタッフの話しかけや見守りに対して高評価を得ている。 ・利用目的…利用者は、広く安全な場所で子どもとのびのびと遊べ、スタッフが行う午前と午後の親子の交流の活動を楽しみにしている。 ・利用者会議等…「いろんな企画、託児付きの講座、イベントにが助けられた。特にNP(Nobody's Perfect)講座(親教育支援プログラム)は役に立った」など、講座やイベントの企画内容に良好な声が多く聞かれた。 		
(2) 苦情・改善等の要望事項	<p>アンケート調査…改善点として駐車場50%、日当たり8%、間取り3%、防犯・防災3%と駐車場・建物の構造上の課題について不満を感じている人が多い。また、自由記述でも「ねんねの会・次の会など、長いと駐車場代が結構出費」などの意見があり、指定管理者だけでは解決できない課題となっている。</p> <p>利用者会議…会議室が埋まっていることが多く、サークル活動の日程調整が困難。</p> <p>講座等…駐車料金が不安で、終了したらずぐ帰り、交流の時間がとりにくい。</p>			
《対応措置》	<ul style="list-style-type: none"> ・講座と駐車料金との関係について、駐車料金割引のある2時間以内に帰れるよう、講座内容は1時間以内にし、母親同士交流時間もとれるよう内容の工夫をした。 ・駐車料金は、利用者の要望について随時保育・幼稚園課に伝え少しでも改善されるよう要望した結果、平成31年4月1日から、滞在3時間まで補助されるようになった。 ・会議室については、出来るだけサークルの希望日に利用ができるよう主催行事等との調整を行った。 ・利用者の要望等に対しては、一人ひとりの投書に返答している。 			

4

事業収支 (単位：円)	指定管理者収支（平成30年度）				市の収支				評価
	年度計画額		収支実績額		平成30年度決算		平成29年度決算（前年度）		
	項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額	
収入	利用料金		利用料金		歳入	使用料		使用料	
	指定管理料	19,192,000	指定管理料	18,452,000		雑（納付金）		雑（納付金）	
	委託料		委託料		行政財産 目的外使用料		行政財産 目的外使用料		
	販売収入等	178,000	販売収入等	191,350	貸付料		貸付料		
	その他収入	200,000	その他収入	962,172	その他		その他		
					国・県補助金	8,513,000	国・県補助金	8,446,000	
	計	19,570,000	計	19,605,522	計	8,513,000	計	8,446,000	
支出	人件費	14,065,000	人件費	14,061,902	歳出	指定管理料	18,452,000	指定管理料	18,452,000
	設備管理費	237,000	設備管理費	170,618		委託料		委託料	
	備品購入費	600,000	備品購入費	918,000	需用費		需用費		
	修繕費	0	修繕費		役務費		役務費		
	光熱水費	0	光熱水費		使用料・賃借料		使用料・賃借料		
	事業費	2,531,000	事業費	2,495,022	修繕費		修繕費		
	事務経費	716,000	事務経費	1,158,705	工事請負費		工事請負費		
	本社経費		本社経費		備品購入費		備品購入費		
	その他	1,421,000	その他	732,600	その他		その他		
	計	19,570,000	計	19,536,847	計	18,452,000	計	18,452,000	
自主事業	収入		収入	259,614					
	支出		支出	255,296					
	自主事業損益	0	自主事業損益	4,318					
損益		0		72,993	差引	-9,939,000		-10,006,000	
人件費比率【人件費（賃金等）／平成30年度指定管理者事業支出】（支出に占める人件費の割合）								72.0%	
本社経費が、計画額と実績額で異なる理由									

3

5 管理運営全般 ※すべて で、「3」。「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

区分	確認内容	チェック欄	評価
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が、適正で有効に配置されているか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	配置実績 (うち市内雇用職員数) 運営責任者1人(1)、副責任者2人(2)、チーフスタッフ5人(5)、スタッフ8人(8)、コンサルタント1人(1) 合計17人(17)		
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか		
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか		
平等利用	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか		
経理	2 使用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか		
施設・備品の維持管理	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に実行されたか		
セルフモニタリング等	2 備品はI種、II種を明確にし、それぞれ台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか		
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが遅滞なく提出されたか		

区分	確認内容	チェック欄	評価	
危機管理体制	1 危機管理マニュアルなどが整備されているか	<input checked="" type="checkbox"/>	3	
	2 危機管理マニュアルなどの内容が職員に周知されているか			
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか			
	個人情報保護 1 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切であったか	<input checked="" type="checkbox"/>		
	防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか		<input checked="" type="checkbox"/>
		2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		
緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	<input checked="" type="checkbox"/>		
	2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか			

7 地域連携

地域連携	評価			
地域の声を聞く体制や、協働で地域貢献ができる運営であったか。市内雇用や市内事業者から物品を購入する等、地域を活用した管理運営であったか。障害者就労施設等からの物品及び役務の調達に努めたか。	5			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>協定内容・指定管理者提案</th> <th>追加された内容、未実施の内容及びその理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・地元商店街主催行事、善光寺花回廊、ながのびんづるなどに参加。わんぱく散髪講座やリフレッシュ講座を共催し、市街地活性化に貢献。 ・折り紙教室、手話で歌おう会などシニアと世代間交流を実施。 ・教育機関と連携し研究・実習・ボランティア育成、研究結果等を広場運営に活用（信州大学教育・工学部、清泉女学院短期大学、長野県立大学・短期大学、中学校、高等学校、長野看護専門学校臨地実習）。 ・地元商店街からの物品購入。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県立大学健康発達学部こども学科・長野県短期大学幼児教育学科と「初めてママとねんねちゃんのおしゃべりカフェ」を開催。 ・ながの協働ねっと主催（運営主体な認定NPO法人長野県NPOセンター）「地域まるごとキャンパス」に活動フィールドを提供。 </td> </tr> </tbody> </table>		協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由	<ul style="list-style-type: none"> ・地元商店街主催行事、善光寺花回廊、ながのびんづるなどに参加。わんぱく散髪講座やリフレッシュ講座を共催し、市街地活性化に貢献。 ・折り紙教室、手話で歌おう会などシニアと世代間交流を実施。 ・教育機関と連携し研究・実習・ボランティア育成、研究結果等を広場運営に活用（信州大学教育・工学部、清泉女学院短期大学、長野県立大学・短期大学、中学校、高等学校、長野看護専門学校臨地実習）。 ・地元商店街からの物品購入。
協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由			
<ul style="list-style-type: none"> ・地元商店街主催行事、善光寺花回廊、ながのびんづるなどに参加。わんぱく散髪講座やリフレッシュ講座を共催し、市街地活性化に貢献。 ・折り紙教室、手話で歌おう会などシニアと世代間交流を実施。 ・教育機関と連携し研究・実習・ボランティア育成、研究結果等を広場運営に活用（信州大学教育・工学部、清泉女学院短期大学、長野県立大学・短期大学、中学校、高等学校、長野看護専門学校臨地実習）。 ・地元商店街からの物品購入。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県立大学健康発達学部こども学科・長野県短期大学幼児教育学科と「初めてママとねんねちゃんのおしゃべりカフェ」を開催。 ・ながの協働ねっと主催（運営主体な認定NPO法人長野県NPOセンター）「地域まるごとキャンパス」に活動フィールドを提供。 			

【総合評価】

評価項目	評価	得点	総合評価
指定管理者の健全性	4	8	<p>総合評価</p> <p>指定管理者の健全性</p> <p>施設の有効活用</p> <p>利用者評価</p> <p>事業収支</p> <p>管理運営全般</p> <p>危機管理体制</p> <p>地域連携</p> <p>--- 基準値</p>
施設の有効活用	5	20	
利用者評価	4	16	
事業収支	3	6	
管理運営全般	4	8	
危機管理体制	3	12	
地域連携	5	10	
合計得点			80

評価理由
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援拠点としての趣旨を踏まえ、設置目的や運営方針に沿った管理運営を良好に行っていることから、「指定管理者の健全性」を「4」とした。 ・電子及び紙媒体などを活用して積極的に情報発信を行っているほか、保健センターなどと連携して出張広場の開催するなど利用者の満足度向上を図る取り組みが出張広場参加者数の大幅な増加に反映されていることを評価し、「施設の有効活用」を「5」とした。 ・アンケートでは98%の利用者がスタッフの対応に満足しており、子育て世代の意見を反映した自主事業が好評を得ている。改善要望に対しても、利用者の意見や立場を考慮し行事日程の調整、意見に回答するなどの取り組みを評価し、「利用者評価」を「4」とした。 ・保育士などの有資格者を多数配置し、事業や講座に生かしている。業務のマニュアル化やシステム化を行い、適切な運営管理が行える環境整備を図っていることから「管理運営全般」を「4」とした。 ・地元商店街や教育機関と連携し、積極的に多様なイベントへの参加や共催イベントを開催し、中心市街地活性化に貢献していることから「地域連携」を「5」とした。

取組み・改善案等（施設所管課）	前年度からの課題	改善状況	改善案等（改善されていない場合）
	育児不安への支援 ・妊娠、出産、育児への継続的支援 待つ支援から出向く支援 ・出張広場の開催 キャリア事業の開催 ・子育て中の母親の社会参加支援 父親への支援 ・父親に対する講座や仲間づくり 駐車場料金への補助	<ul style="list-style-type: none"> ・産前産後支援ホームビジター養成講座を行い、妊娠から継続した支援の充実を図った。 ・北部・東部保健センター、民生委員主任児童委員部会などと連携し、多胎児や広場のない地域で出張広場を開催（参加者H30年度、1,295名） ・施設利用児童の父親と実行委員会を組織。企画・運営を行い、当事者が必要とするパパ講座を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年4月から指定駐車場の補助対象（1時間200円のうち100円を補助）時間を、2時間から3時間に拡大する。

次年度の目標・取組み等（施設所管課）
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者支援事業（子育てコンシェルジュ）の開始により、身近な場所での相談や情報提供などの支援、関係機関との連携・協働体制を構築していく。当事者目線に立った寄り添い型の支援を行っていく。 ・11月よりもんぜんがら座の耐震工事が始まるため、利用者に注意喚起を行うとともに、もんぜんがら座事務局と連携して利用者が安全に安心して利用できる施設運営を期待する。

指定管理者自己評価

(1) 今年度の取組みに対する評価

① サービス向上に向けての取組み

- ・ 駐車料金がかかり駐車場が遠いなど利用が困難。また大勢の人のいる所には出て来にくい保護者等へ、北部・東部保健センター、第三地区住民自治協等と連携し地域密着型の広場を開催し、じゃん・けん・ぼんの利用につなげた。
- ・ じゃん・けん・ぼんのシンボルであった「段ボールハウス」が老朽化し危険なため、長野県「子どもの居場所」木質空間整備事業に応募し、補助金(375,000円)を得て、新しい「木の家」を設置し、安心して遊べる環境を提供した。
- ・ 育児に不安感・負担感など悩みを抱え、子育てをしている保護者が増えている。臨床心理士によるスタッフの傾聴講座(講話・ロールプレイ等)やNPフォーラムを開催し、スタッフのブラッシュアップに努め、身近な所で相談したい時に時間を経ないで保護者が相談できるよう配慮するとともに、他機関等と連携ができるよう利用者支援事業の実施について要望した。
- ・ ホームスタート事業(訪問型子育て支援事業)は、孤立感の解消、心身の安定、子育ての意欲が向上され、じゃん・けん・ぼんの利用につながっている。(H30利用者新規56人、継続11人、訪問数421回)住民自治協に出向きボランティアの募集や「こんにちは 赤ちゃん事業」等で利用の紹介をしてもらうなど広報に心がけた。

② 業務の効率化に対する取組み

- ・ 常勤スタッフが少なく、パート職員が多く意思疎通がなかなか難しい。業務のマニュアル化やシステム化の見直し等随時行っている。
- ・ アンケート調査により、じゃん・けん・ぼんの情報をHP、Facebook、ブログ等で得ている比率が高かったため、情報の毎日更新に努め、チラシ等の印刷物の削減に努めた。
- ・ 講座の講師に法人所属の専門家等を活用したり、スタッフの資格わらべうたベビーマッサージ指導者(7人)、J P I C読書アドバイザー(1人)、絵本セラピスト(2人)、公認コアキッズ体操普及員(4人)、NP認定ファシリテーター(8人)を活用し、謝金等を抑制した。またボランティアとの連携に心がけた(年間206回)。
- ・ 保険契約は、全国の子育て支援団体である「子育てひろば全国連絡協議会」が行っている「ひろば保険」に加入し、経費削減に努めた。
- ・ 内部的に必要な印刷物、館内でのお知らせの掲示物などは裏紙を使う、遊具等も空き箱、布切れ等を活用し手作りに心がけるなど、日常生活において経費削減に努めた。
- ・ 経費について、情報誌への広告掲載、寄付金の募集等を行い、事業内容の一層の充実を図った。

③ その他

- ・ 教育機関と連携し、実践・インターンシップの場の提供と共に、利用者の社会参加また研究成果を広場運営に活用し、事業内容の充実を図った
- ・ 長野市教育委員会キャリア教育推進事業「赤ちゃんだっこ」乳幼児とその保護者229組参加、市内9中学校38。
- ・ 長野県立大学、長野県短期大学金山ゼミ：「初めてママとねんねちゃんのおしゃべりカフェ」を共催。
- ・ 長野看護専門学校臨地実習：母性保健学講座の臨地実習生36名(各2日)終了後親子の関係等意見交換。
- ・ 清泉女学院短期大学二方ゼミ：乳幼児期の子どもに適切な遊具、遊びについて意見交換。
- ・ 妊娠期から休日マタニティセミナー(長野市保健所との協働事業)、プレネイタルミーティング、プレママサロン、ホームスタート産前産後支援、ねんねの会、ねんねの次の会へと妊娠期から切れ目のない支援が体系化。
- ・ 資源の循環、エンパワメントの場：休日マタニティセミナー、ねんねの会等では、参加した父親・母親が運営の手伝い・講師をするなど資源の循環、エンパワメントの場ともなっている。
- ・ 国立成育医療センター母子の孤立予防のための「地域子育て拠点と母子保健分野の連携を考える」に参加し、先進事例として発表。

(2) 指定管理者業務実施上の課題

- ・ 日々より質の高いサービスの提供に心掛け、利用者が安心して遊べる安全な場所の提供のため、スタッフの配置を日中多くしているので、財政的に厳しく、専門性の高い職員の正規雇用が困難である。
- ・ 駐車場から遠くまた有料であるといった施設の制約のある中で、いかに特色のあるサービスが提供できるかが課題である。また、アンケート調査では改善点として駐車場を上げている人が50%と多く、「たくさん遊びに来たいが有料なので来られず、また長いことができない」等の声が聞かれ、駐車料金が払える人しか来れなくなっていることが課題である。また、他機関との連携の中で、駐車料金がかかるので、じゃん・けん・ぼんではイベントができないとの声も聞かれるなど利用者へのサービスの制約にもなっている。
- ・ 子どもが遊び慣れた身近な場所での託児(預かり)が求められている。保育所の一時的保育とは競合しない短時間の預かりが課題である。
- ・ 相談内容の複雑・多様化により、他機関と連携し個別ニーズに応じた情報の提供が必要であり、利用者支援事業の実施が課題。

(3) 総合評価

評価基準(計画=事業計画)

- 【A】計画や目標を大きく上回る
- 【B】計画や目標を上回る
- 【C】計画や目標どおり
- 【D】計画や目標を下回る
- 【E】計画や目標を大きく下回る

指定管理者
自己総合評価

A

① 評価理由

- ・ アンケート調査、相談内容の結果等をもとに、常にPDCAサイクルにより、振り返り自己評価を行い、必要な支援・事業を地域・他機関等と連携し、展開している。

利用者に転入者が多い 転妻の会 ⇒ 長野市子育て支援課 「初めてながのウエルカム交流会」 3回開催 満足度約80%
 多胎児を持つ保護者の交流会 さくらんぼデー ⇒ 長野市保健所 北部保健センター「ふたごみつご広場」月1回 101組 妊婦4人 308人
 (長野市民生委員児童委員協議会主任児童委員部会と連携)

- ・ 利用者に必要な事業については、補助金事業に申請また寄付金を募ることで、利用者のサービス向上に努めた。

長野県 「子どもの居場所」木質空間整備事業	375,000円	「木の家」 備品I種
認定NPO法人 長野県みらい基金 事業指定助成プログラム	48,000円	「ながのわくわくパパ講座」
寄付金 国際ソロプチミスト長野一みすず	200,000円	「ホームスタート事業」

② 次年度以降の取組み

- ・ 求められる広場を目ざして
 少子化、女性の就業の増等による0歳児、1歳児の入園により広場の利用者が減っている中で、駐車料金を払っても来たい広場になるために開館時間の検討も含め創意工夫をする。(5時から6時の利用者が極端に少なく、開館時刻の前倒しを望む声も多い)

- ・ 個別ニーズに沿った支援の充実
 気になる子ども、保護者の病気、ひとり親の家庭の増加等相談内容の複雑多様化に伴い、個別ニーズに応じた情報の提供を行うなど支援の充実を図る。

- ・ 地域連携と人材育成 支援に必要な資源の発掘やボランティアの育成をする。
- ・ 父親への支援 当事者である父親と実行委員会を組織し、子どもに信頼され、パートナーと共に子育てを喜び合える父親を目指す。